

平成30年度第2回 大和市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成30年8月27日（月） 午後2時～

場所：大和市保健福祉センター 501会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 次期計画策定に向けたニーズ調査について

事務局：（資料により説明）

会長： ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

委員： 外国人世帯の調査はどのように行うのか。

事務局： 本市在住の就学前児童（0歳～5歳）のいる世帯に対し、住民基本台帳から地域バランスを考慮し、無作為に調査対象世帯の抽出を行う。外国人世帯については、大和市国際化協会を案内する等の案内文を同封する等の案を検討しているところである。

委員： この調査票の内容について、外国人の方が理解して回答することが難しい状況も考えられる。可能であるならば、最低限回答してほしい項目を絞る等、調査票を簡略化し、少しでもニーズや実態を把握する手立てがあれば良いと考える。

事務局： 質問項目を絞ることは、データ集計の観点から難しいと考えるが、どのようにすれば回答しやすくなるかを考えていきたい。

委員： 対象を3000世帯としているが、就学前児童の世帯数はどのぐらいか。

事務局： 世帯数はこれから抽出することとなるが、対象の児童の数としては約12,000人である。

委員： 過去にこの調査に回答したことがある。過去の結果はホームページに掲載されているか。

事務局： ホームページで掲載している。

委員： 調査結果の項目がどの施策に反映されているかが分かる資料はあるか。

事務局： 調査結果が一对一でこの施策に反映されているという資料はない。調査結果をこの会議に報告し、その結果を施策にどのように反映していくかを議論していただき、次期計画に反映していく流れである。

委員： 調査結果がどのように施策に反映されているかが分かるかと回答者のやる気

に繋がると思われる。

事務局： 調査結果と施策をイコールで結べるかは内容によって難しい部分もあると思われるが、回答率を高めていくことは重要であるため、結果の公表の方法についてはご意見を参考にさせていただきたい。

委員： この会議の認知度についてアンケートで質問することはできるか。友人に聞いても誰もこの会議を知らないので、知ってもらいたい。

事務局： この会議の周知を図るということでは、設問ではなく案内文に掲載するなど手法もあると思うので検討させていただきたい。

委員： 現在、私学助成の幼稚園では幼稚園で定めた保育料を徴収した後に、就園奨励費として保育料の一部を返している状況であるが、幼児教育が無償化になった場合、就園奨励費について調査票にどのように記載する予定か。

事務局： この内容については、国で具体的な運用を協議中であるため、現時点では未定である。

委員： 全国共通で量の見込みを算出する項目のうち、子育て短期支援事業について大和市の該当する事業がないというのはなぜか。また、調査票に保育事業の利用に関する質問があるが、回答の選択肢の事業名（認可保育所等）が難しく、利用者が理解しにくいと思われる。分からない方向けに、通っている保育所名を書いていただく方法もあるのではないか。

事務局： 質問の1点目について、子育て短期支援事業は、保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった子どもについて、児童養護施設等に入所させ必要な保護を行う事業であり、本市では該当の施設が無い場合、実施していない事業である。また、2点目については、これまでの調査票と同様に初めに用語解説を掲載する予定であり、より分かりやすい内容となるよう努めたい。

委員： 子育て世帯の経済状態について調査票で質問するとのことだが、具体的にどのような内容を想定しているのか。

事務局： 現時点では案の段階であるが、世帯の年収について質問し、世帯の経済状態を把握したい。さらに、お子さんに関する状況について、例えば経済的な理由で買えないものやあきらめているものがないか等を聞くほか、世帯の状況についても同様に、生活に必要な支出が賄えているか等について、設問を追加する予定である。

委員： 経済状態の調査は難しいと思う。例えば服が買える買えないというのも我慢するかしないかの価値観によるものがあると思う。

事務局： 質問の内容については慎重に検討していきたい。一般的に多くの方が必要と思うものが経済的な理由で賄えていない状況がないかを調査していきたいと考えている。

- 委員：送迎ステーションの利用についても、ニーズを把握する必要があると思う。
- 事務局：送迎ステーションについても何らかの形で利用意向を確認していきたい。
- 委員：過去の調査実績で70%近い回収率というのは相当高い数値である。まさに保護者からの期待感の表れだと思う。
- 委員：今回の調査対象数は3000世帯とのことだが、インターネット等を活用することで、さらに幅広い方から回答を頂けるのではないかと。
- 事務局：今回の調査方法は、過去の調査と同様に大和市の人口規模から統計学的に有効なデータが得られる手法としている。また、本調査は量の見込み等の数値に結びつける必要があるため、データの信憑性や分析の観点から考えると、調査方法については無作為抽出による必要があると考える。統計的な分析を行う必要がなく、幅広い方から多様かつ多数の意見をいただきたいような場合には、インターネットの利活用も一つの手段と考えている。

(2) 特定・保育施設の利用定員について

- 事務局：（資料により説明）
- 会長：ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
- 委員：今年度、本市南部の1施設で利用定員を増やすとのことだが、南部の保育施設等の利用状況についてどのように見込んでいるか。
- 事務局：一昨年、昨年と北部の人口増加に伴い、整備をすすめてきた経緯がある。しかし、中部・南部については、今年4月に利用申し込み数が定員を上回ることとなり、今年度の整備を進めているところである。しかし、無償化の流れもある中で、これで一安心とは考えていない。

4. その他

・子ども・子育て支援事業計画の進行管理

- 事務局：（資料により説明）
- 会長：ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
- 委員：（意見等なし）
- 会長：全体を通して、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
- 委員：1点目、ここ数年、市内にマンション等の大規模住宅の建設が予定されているが、どのように子育てニーズに影響していくのか。ここ数年の動きをどのように捉えているかをお聞きしたい。
- 2点目、保育士確保のための施策をどのように考えているか。以前は住宅に係る補助を実施していると聞いたことがある。
- 事務局：1点目の北部の大規模マンションについては、マンション事業者と保育所の

整備等について協議しているところである。また、昨年度から相当の保育ニーズが見込まれることを想定し、北部については保育所を前倒しで整備してきた経緯がある。

事業者に対し、保育所の整備を見込むため、世帯状況等、事前に把握したいところではあるが、個人情報の観点から詳しい内容の把握は難しい状況である。

また、市外から転居してくる入居者が一定数いるとのことを聞いており、このマンションに市内から転居する方については、従前から市内の保育所を利用していることが想定されるため、保育ニーズの増減は軽微と考えているが、市外から転居してくる方については、保育ニーズを見込んでおく必要があるため、事業者と調整しながら、引き続き注視していく必要がある。

大規模マンションの建設における保育所の整備については、今年6月に大和市開発事業の事務及び基準に関する条例を改正し、従前は500戸以上で市と保育所設置の協議が必要としていたものを200戸以上に引き下げたところであり、事業者と街づくり所管部署の協議についても、早い段階からほいく課も加わり、保育所について調整をしている。

2点目の保育士の確保については、住宅に係る補助以外にも、今年から潜在保育士（保育士資格を持っているが、現在勤務していない方・保育園で働いたことが無い方）のジョブトレーニング（職場体験）事業を新たに始めた。市外から保育士を呼び込むことも大事であるが、市内に潜在保育士が一定数いるのではないかと考えている。現時点では3人が応募されている。

委員：ジョブトレーニングは、ほいく課が窓口か。

事務局：ほいく課である。ジョブトレーニングのメニューについては、あらかじめ決まっているものを受講していただくのではなく、面談をし、その方にあったメニュー作りを行い、効果的な内容となるよう努めている。

委員：参加費用は有償か。

事務局：給食費以外は無償である。

委員：放課後児童クラブについて、放課後児童クラブ支援員の確保に苦労しているという話を聞いているが、支援員のジョブトレーニングは予定しているか。

事務局：予定はないが、ご提案等があったらお寄せいただきたい。

委員：保育士のジョブトレーニングは公立保育園で実施しているのか。

事務局：そのとおりである。

委員：幼児教育に携わる立場として、保育の無償化も大事であるが、実際に学生の就職状況等を見ていると、もう少し保育士側の施策があればと思う。

事務局：おっしゃるとおりであり、これだけ急速に保育施設を整備していることから、保育の質をいかに担保していくかが重要であると考えている。民間の保育

施設においては、比較的経験の浅い保育士の方が多いため、ほいく課主催で年4回の研修を行っている。また、発達面等で配慮が必要な児童の対応について、市職員が各民間保育施設を訪問し、実態を把握するとともに、相談ごとがあればほいく課にお問い合わせいただくようお願いする等、市が培ってきたノウハウを民間保育施設にフィードバックしようと考えている。また、現場の負担を軽減するため、無呼吸アラーム（赤ちゃんまもるくん2）を配付したところであり、保育士の方に本市の保育施設は働きやすいと感じていただければと考えている。保育量の増大ばかりスポットが当たりがちだが、保育士側の施策も重要であると考えている。

委員：働く側である保育士のアンケートも必要ではないか。

事務局：ご意見として承る。

委員：私が勤務する保育施設でも無呼吸アラームが大変役立っている。

会長：事務局から連絡事項があればお願いします。

事務局：文化創造拠点等運営審議会（文化創造拠点シリウス及び市内学習センター・図書館の運営に係る審議会）から子ども・子育て会議あてに委員の推薦依頼があり、会長・職務代理と協議の上、下田委員を推薦した。任期は平成30年9月1日から2年である。

5. 閉会